

# 案内

遠古の伊良部島生まれの私は、島ぢやびを何度も体験し、「島は、都会に比べて劣っている」との価値観を擦り込まれて育った。都会の華が溢る島ぢやび、島の持つ豊かさに気づかされたのは、40代にもなり開発途上国を訪れたときであった。これまで、「島」とい

えない家族団らん、日焼死に携わっているが、島(有利性)「ともいえる。けし汗をきなながら近隣での暮らしを体験した。また、島は狭小性、環海ユイマールのキビ刈り、みなが、仕事に活かされ性、遠隔性が持つ特徴か地域みんなでの子育てと教育、高齢者への敬老補域ケアの推進の方向性とくして、「不利性の克服」「慣わしい(不利性)」でではなく、「有利性の伸もあがるが、「干渉されな展」にするという逆転のから支えあう(有利性)」ガヤの地域行事、困って発想を持つことができたこともできる。有利性で

後には、「2000万円貯蓄が必要」との触れ込みもある。しかし、安心して人生を生き抜くためには、そのような物質文明の考え方はなく、島に残されている精神文化にそのヒントが潜んでいるのかもしれないと思えてならない。



**安心して人生を生き抜くヒント**  
物質文明から精神文化へ  
沖縄県立看護大学 大湾朋美

物質文明に執着し、「トト」のもつ精神文化を軽視してきたこと(島ぢやび)を悔いした。

いる時は、お互い様の精神での助け合いなど、数えきれない程、豊かな生活体験をした。

現在、私は、高齢者の「介護問題が深刻(不利)

島を捉えれば、島の豊かな精神文化が見え、看護活動の可能性も導けることを学んだ。

今、超高齢社会を迎え、健康保険、介護保険、年金保険などの社会保障制度が揺らぎ、安心した老加を呼びかける。

島の豊かさを振り返れば、海と畑からの贈り物を食材にして粗末な食生活を営みながらも天賦の絶

域ケアにこだわり、教育研

自立した高齢者が多い

をテーマに、沖縄県立古総合実業高等学校で開

加を呼びかける。

# 地域ケアは生活者視点で

日本ルーラルハナーシング学会学術集会

## 離島の医療、介護を考える

### 高齢者 住民の「互助」を活性化

日本ルーラルナース学会の第14回学術集会が、10日、「辺境の地」である宮古島に開催された。地元、沖縄県、県外の看護師、訪問看護、介護老人福祉センター関係者が参加し、半日学術集会の開催や教育講演、講演、シンポジウムの開催が予定されている。ルーラル・ナース・入会者の活動活性化、高齢者の生活の質を向上させること、地域社会の発展を目的とした講演やシンポジウムが予定されている。

医療の人材育成へは、離島における総合診療医としての医師の活躍を通じて、地域の医療を活性化させることが重要である。宮古島には、総合診療科の医師が不足している。この問題を解決するためには、医師の派遣や研修の充実が必要である。また、地域住民の健康意識を高めることも重要である。健康講座や検診の開催などを通じて、住民の健康意識を高め、医療へのアクセスを向上させる必要がある。

大瀧氏の講演は、地域の医療や介護の現状を踏まえ、高齢者の生活の質を向上させるための取り組みについて話した。高齢者の生活の質を向上させるためには、地域社会の発展を目的とした取り組みが必要である。地域社会の発展を目的とした取り組みには、高齢者の生活の質を向上させるための取り組みが含まれる。地域社会の発展を目的とした取り組みには、高齢者の生活の質を向上させるための取り組みが含まれる。



本永英治氏



大瀧明美氏



「辺境の地に息づく地域ケア」をテーマにした学術集会で講演を聞く参加者＝宮古総合実業高校体育館

宮古島には、総合診療科の医師が不足している。この問題を解決するためには、医師の派遣や研修の充実が必要である。また、地域住民の健康意識を高めることも重要である。健康講座や検診の開催などを通じて、住民の健康意識を高め、医療へのアクセスを向上させる必要がある。

地域社会の発展を目的とした取り組みには、高齢者の生活の質を向上させるための取り組みが含まれる。地域社会の発展を目的とした取り組みには、高齢者の生活の質を向上させるための取り組みが含まれる。